



# 中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

令和4年10月7日発行 通算第82号

## 今こそ 音楽の力を

全日本音楽教育研究会中学校部会長  
荒川 徳子 (府中市立府中第七中学校長)



この2年半で、私達の生活は大きく変わりました。コロナ禍前はマスクをして歌うことなど思いもよりませんでした。しかし現在、マスクをして歌うことは当たり前の光景になり、この生活に慣れてしまいました。近い将来マスクを外す日が来た時、子どもたちはどのような反応を示すのでしょうか。我々音楽科教員は一日も早くマスクを外して、思い切り歌わせたいと願わずにはいられません。

皆様には日頃より全日音研中学校部会の活動に対しまして多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年度も引き続き部会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

昨年度は全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会が初めて誌上発表という形態で開催されました。対面での開催ができませんでしたが、これまでの研究成果を大会誌にまとめていただきました。令和元年度東京大会の成果と課題を受けて、継続3視点を中心に据えた研究を進め、深めてくださったことに敬意を表します。ありがとうございました。

今年度は3年ぶりに対面での全国大会が山口県山口市で開催されます。開催が決まってから、山口県の先生方は多くの時間を費やして準備をされてきました。ここ2年半は新型コロナウイルス感染症による影響でなかなか思うように研究が進められず、もどかしい思いをされたかもしれません。しかしこのような中でも、山口県の先生方はできることを模索しながら、工夫して大会の成功に向けて努力されています。今年こそ、全国から音楽の先生方が集い、学び、コロナ後の授業について語り合ひましょう。ぜひ多くの先生方の参加をお願いいたします。

さて全面実施2年目となった新しい学習指導要領での教科指導。今回の改訂で評価の観点点が3観点になり、昨年度はそのことに我々の意識が向いていた気がします。各支部におかれましても、研鑽を深められたことでしょうか。評価について研究を進めていくと、やはり我々の指導の在り方を考えなくてはいけないと気づかされ、「指導と評価の一体化」に辿り着きます。また「GIGAスクール構想」によりICT機器の活用が進みましたが、その活用にはばかり意識が向いていないでしょうか。「対話的な学び」を重視するあまり、話し合う時間が多くなり、「音」がなくなっているのでしょうか。大切なことは「なぜ中学校で全員が音楽の授業をうけるのか」、「音楽を学ぶ意義は何なのか」、「音楽科で子どもたちに身に付けさせたいことは何なのか」を自ら問い続け、子どもたちの前に立つことだと思います。そして、コロナ後の学校教育においても「やはり音楽科の授業は必要だね」と社会全体から期待される教科として、一層の向上が求められると思います。そのためにはコロナ禍以前に戻す意識ではなく、常に授業改善を重ねていく努力の継続が必要です。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、より一層の全日音研中学校部会へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子どもたちが心の底から音楽を楽しむことができる日が1日も早く訪れますように。

### Contents

- P1 会長あいさつ 全日音研中学校部会長 荒川 徳子
- P2 全国理事会 全日音研中学校部会 事務局長 佐藤 隆弘
- P2~5 講演「全面実施となった今、改めて確認しておきたいこと」  
元文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課  
教育主幹 兼 義務教育指導係長 臼井 学 先生  
令和4年度研究大会案内
- P6 令和4年度 山口大会の概要・Information

### 発行

全日本音楽教育研究会 中学校部会

東京都府中市武蔵台 2-4  
府中市立府中第七中学校内  
会長 荒川 徳子

## ◆ 全国理事会 ◆

日時 : 令和4年6月24日(木) 13:00~16:00  
会場 : 府中市立府中第七中学校 (オンライン)  
司会 : 事務局長 佐藤 隆弘



今年度の全国理事会は、昨年に引き続き中学校部会常任理事は会場に集まり、各支部長先生方はオンラインによる参加という形をとった。今回は41支部の支部長先生方にご参加いただき開会となった。会は荒川部会長あいさつで始まり、各支部長自己紹介に続き、議事に入った。議長は中学校部会事務局清野次長が務め、令和3年度事業報告、会計・会計監査報告が承認され、続いて令和4年度役員改正案、活動方針案、事業計画案、予算案、表彰者案が審議され承認された。続いて、各地区の情報交換、今年度の調査研究についての提案・調査協力依頼、会費納入のお願い、要覧作成の依頼について、各担当より提案された。次に全国大会「山口大会」「富山大会」についての紹介があり、全国理事会を終了した。

引き続き講演会に移ったが、各地区の情報交換の中で、各地区の研究大会の開催方法等の報告がなされ、オンラインやオンデマンドによる開催を視野に入れた地区が多いことを確認した会であった。

## ◆ 研修会 ◆ 講演

### 「全面実施となった今、改めて確認しておきたいこと」

元文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課  
教育主幹 兼 義務教育指導係長 臼井 学 先生



### 【はじめに】

全面実施とコロナ禍が一緒になってしまったことによって、進めていく上で様々な困難が出てきていると思う。「GIGA スクール構想」「令和の日本型教育」「個別最適な学び」「カリキュラム・マネジメント」「主体的な学び」「協働的な学び」「対話的な学び」「深い学び」「見方・考え方」「社会に開かれた教育課程」このように様々な言葉が出ているが、これらの言葉は全て学習指導要領に関連付いているか、あるいはその中で言われているかいずれかになる。新学習指導要領はSociety5.0とか予測困難な時代を踏まえたうえで急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力が育成できるように改訂されているので、新学習指導要領の着実な実施ということが、大事ということになる。その際、ICTの活用によって学びの質を高めたり、あるいは教職員の負担を軽減したりということができるといいということで今進められている。今次改訂の学習指導要領は平成28年の答申を受けて改訂されたが、戦後の学校制度が制定されたのと同じぐらい大きな教育の転換点だと捉えて作られている。まさに新しい時代にふさわしい学校教育の在り方を求めていく。今まで大切にされてきたことは当然大切で、これからも大切になっていくこともあるが、発想の転換をしていかなくてはいけないと思う。学習指導要領では、子供が自分で学んでいき、先生たちが伴走者として一緒に走っていくものとして子供たちの学びの歩みに寄り添いながら進んでいく学びのスタイルを変えるという捉えをしている。

### 【中学校で全員が学習する教科として音楽科が存在する意義とは何であろうか】

今回の学習指導要領では目標の最初のところ(柱書)で、まず、それを明確に示している。全ての子供たちが、これから長い人生を生きていくにあたり、生活や社会の中には音や音楽や音楽文化に関わるものはたくさん存在していて、それらと、何か関わっていく可能性は当然あるし、関わらざるを得なかったりする。だとすれば、そのようなものと豊かに関わっていけるような資質・能力を学校教育において育成しておけば、子供たちがこれから先の長い人生において音や音楽、音楽文化、そういった生活や社会にあるものと、豊かに関わりながら心豊かに生活をしていく人たちが育っていく。これが、音楽科という教科の存在意義である。例えば中学校の解説では、音楽との関わり方とい

うのは「歌う」「楽器を演奏する」「音楽をつくる」「聴く」などがあり、そのどれであっても、音楽文化を継承したり発展したり創造したりすることにつながっていくのだろうと思う。音楽文化というのはすべての人がつくっているものであって、ある特定の人たちだけがつくっているわけではない。音楽なんてどっちでもいいのか、素敵な音を聴いたときにきれいだなと思う人が全くない、という世の中は嫌なわけで、そうではない世の中にしていくことに音楽という教科が寄与していると考えたい。解説にこんなことが書いてあるページがある。「例えば、合唱や合奏は、他者ととともに一つの音楽表現をつくっていくが、そこには、音楽表現に対する思いや意図に基づく自己の主張と他者との協調とが両立していることが大切である。」音楽でこのようなことが学べるが、これは学級や社会でも大切なことではないかと思う。文章の最後には、これは音楽科の学習の重要な特質というように書いてある。音楽の学習をすることで音楽の力はもちろんつくが、音楽の学習をすることによって、何か人として大切なことを学べる。そういうものをきちんと含んでいる教科だということは、音楽科は、非常に強く主張してよいではないかと思ふ。知覚、感受もそうだが、知覚というのは事実的なこと。感受というのは個人の主観的なもの。学校内で起きる子供たちや先生方同士のトラブルなどは、だいたいこの2つが整理されていないときに起きる。いったいどういう事実関係があったかということと、そこで、どんな感情をいだいたのか、それがどういう関係性にあるのかを整理していかないと感情論と事実がごちゃまぜになってぶつかってしまい、一向にその解決に至らないことがある。音楽もそうで、「こんな感じにしたい」とばかり言ってもなかなかそうはならない。「これはこのようにできている」という事実だけを述べられても、音楽としてはさびしいものになってしまう。そういった客観的なことと主観的なことを行ったり来たりする重要な過程を歩んでいる音楽科の学習というものを、音楽の先生方自身が「私たちはそういうことをやっているのだ」と思っただけで授業をしていただきたい。そうすると自然に〔共通事項〕のAに基づく、知覚したり感受したりする場面をきちんと持って、その2つがどのように関わっているのかということ子供たちが考えながら、「どんなふうにこの曲を表現していこう」とか、「この曲はこんなところがいいとこなのかな。」という思考の過程を歩むということの重要性を、多くの音楽の先生方で、子供たち、地域のみなさんに知っていただけると、授業の中身は必然的に変わっていくものだと思う。「一体、音楽科とは何のために存在しているのか。」「どういう意味があって存在しているのか」ということを考えることは、実は授業改善に直接つながる。授業改善は色々なことを知ればできるのではなくて、「何のために私は子供の前に立っているのか」ということを知ることによって進むのではないかと思っている。

## 【知識・技能について】

今回の学習指導要領での知識というのは理解を含めた概念。子供たちが外からもってきて覚えればよいというレベル感の知識と、そういうものを使って、曲想との関係性の中で「あ、こういうふうにこの音楽はできているのだな、だから、こうなのか」ということを子供が実感的に理解していくというものは少しレベル感が違う。子供たちが思考・判断しながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解していくにあたり、このような情報はあらかじめ子供たちがもっていないとできないとか、こういう情報に関しては子供たちが端末を使って調べるとか、何かしないと、そこから先に進めないなというものは、ある意味しっかり教えていただいていい。何を教えるかということをはっきりさせることによって、どういった理解を促すかがはっきりしてくる。

技能も同じ。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けられるような授業を展開するためには、その前提として必要な技能というものもある。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける授業を考えるにあたり、最初に皆でできるようにしておいた方がよいことは何か、ということを考えなければならない。これについては「解説」の「第3の指導計画と作成と内容の取扱い1の(1)」というところで解説している。「基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それらを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である」と書かれているので、目標や内容の知識事項・技能事項に示している資質・能力を、子供たちが身に付けられるようになるためには、確実な習得を図ることが大事になるものがある。子供たちが「そういうことか」ということが分かるような形で基礎となるものをしっかりとやっておく。「なんのためにやらされているのか、最初から最後まで分からなかった」というようなことは、いくらできるようになったように見えたとしても、子供たちの中には最終的には残らないと思う。今回の授業の中で何をこの部分として扱っていくか、ということを考えることは授業づくりでは非常に大切だと思う。

## 【主体的・対話的で深い学びについて】

この中で教科ごとに大きな違いができるのは、深い学びである。見方・考え方を働かせながらやるということが非常に重要になるので、教科の本質に迫る学びであると考えられると思う。深い学びの実現ということを考えるとき、見方・考え方の話が出てこなかったらおかしい。音楽科において深い学びの視点から授業改善をしようというふう考えた場合は、当然、見方・考え方を働かせるとはどういうことか、ということ、しっかりと考えていかないと、そこには深い学びの視点からの授業改善ということは生まれてこない。

## 【見方・考え方について】

音楽的な見方・考え方は3つの部分に分けることができる。①「音楽に対する感性を働かせること」は音楽の時間では、まず大事。音楽の学習の成立の基盤と考えてもいい。子供たちが音楽を聴いたり、実際演奏したりして何を感じているか。分かりやすく子供たちが表現してくれればいいが、そうでない場合は、なんらかの方法を使って、何を感じているのかを探っていくなくてはならない。今であれば1人1台端末があるので、クラウド上でスプレッドシートに思いついたことを入力することで、一気に全員で共有することもできる。②「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉える」というのはまさに、音楽そのもの、音そのものとしっかりと向き合っていくことを大事にしている部分。〔共通事項〕のアと非常に深い関係がある。③「自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」は音楽がどういった意味があるのか、音楽の存在している意味、その音楽を自分たちが聴いたり演奏したりする意味、自己のイメージや感情、自分がどう感じたかということと結び付くことによって意味が出てくる場合があるし、生活とか社会とかとの関係性の中で意味が見えてきたり、伝統や文化というものとの関係性の中でその意味が見えてきたりするということになる。この③の部分は、子供たちが、その教材を扱った授業をやったことに、意味を見出せるかどうかということにおいて重要なこと。この、①②③を見たときに①というのは昔から大事にできていること。②は20年改訂で〔共通事項〕が新設されたことによって、音楽を形づくっている要素の知覚・感受ということが大切にされ、音楽科の学習における意味は全国に認知され、納得されたこと。なので、今回、見方・考え方が出たことによって、そういったこれまでの基盤に乗りながら、③のところをどのように、授業に位置付けていくのか。これによって、見方・考え方を働かせる場面ができるということになり、音楽科における深い学びということがこれによって生まれていくということになる。③のところをその題材の中で、どこに、どのように位置付けているのかということ、色々な先生方の授業を見ながら各県の音楽教育をリードされている皆さんから、ご助言いただければ、お若い先生方を含め、今回言われている「深い学びや、見方・考え方を働かせる授業とはそういうことか」ということが見えてきて、音楽科の授業が質的に高まっていくことが期待できると思っている。見方・考え方を働かせなければ、資質・能力は育成されないように学習指導要領は作られている。また、各事項では音楽的な見方・考え方を働かせた学習をすることを前提として、その内容を示している。これについても解説のP93に書いてあるので、ご確認いただきたい。

## 【音楽科における学習評価の基本的な考え方】

適切な学習評価を行うことができるということは、適切なねらいに基づくよりよい授業が実現しているということと、非常に近い関係にある。いい授業ができているのに評価ができないということは考えにくい。資質・能力としてこういうものを育成しましょうと指導事項において、「知識」と「技能」と「思考力、判断力、表現力等」それぞれについて書かれているので、そういうものを身に付けられるように、私たちは指導している。そして、それが身に付いたかどうかを見ることによって評価ができる。これが、指導と評価の関係なので、まさに表裏の関係。そうすると「こういうことができるようにしよう」とやった授業で、あまりできなかったと思えば、もう少しよいやり方はないかと考えるので、自分の指導改善につながる。

授業の場面で、「主体的に学習に取り組む態度を評価をしていいのか、知識・技能とか思考・判断・表現を評価していいのか、両方あるから分かりにくい、どのように考えればいいのか」という質問が出ることもある。主体的に学習に取り組む態度の学習というのは何を指しているのかということ、知識や技能の習得、または思考力、判断力、表現力等の育成である。主体的に学習に取り組む態度というのは、知識・技能とか思考、判断、表現と別の所で存在している観点ではなくて、必ず常に同居している観点。例えば技能の習得に向けて授業をしているとき、その目指した技能が身に付いたのか、付いていないのかは知識・技能の観点で見えていく。つまり、結果的にその技能が身に付いているのか、いないのか、を見る。一方でその技能を習得としようとしている様子を見ているのが、主体的に学習に取り組む態度となる。そのねらいに向かって一生懸命にやっていると、「できたな」となった時、「できたな」というのが技能で、「それに向かってこんなふうにやっていたな」「よくやっていたね、この子供は」というのがBになる。もっとよくやっていた子はAになる。やっていない子はCになる。結果的にどうなったかは知識・技能で見られるけれど、それに向かっていくとき、どうやっていたかを見ているのが主体的に学習に取り組む態度になるので、見ているものが違うということになる。

## 【思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素の考え方】

評価の参考資料で初めて使っている言葉である。例えば学習指導案に、「音色、リズムを知覚し」などと書く場合、授業の中で扱う可能性がある音楽を形づくっている要素、と考えているとたくさん出てきてしまうが、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素は何だというように考えたい。子供がどの要素の働きをきっかけとして、どのように表現するか、または音楽のよさは何か、などについて考えていくのか、ということをも十分吟味して、要素を絞り込んでいかないと、何をやっているのか分からなくなってしまう。しかも、たくさん要素を取り上げた場合、その全てが知覚・

感受の対象となるので、B規準のハードルがとて高くなってしまふことになる。〔共通事項〕のアを、今回の改訂で思考力、判断力、表現力等の資質・能力だと位置付けていることを再確認していただき、このあたりを整理していけるとよいと思う。

### 【主体的に取り組む態度について】

これ（主体的に取り組む態度の説明で使われている図）は、グラフでなくイメージ図。ただ一生懸命にやっている、粘り強くやっているように見えてるだけだとCになってしまう人もいるかもしれないということを強調している。自分がどのねらいに向かっているかという、その方向性をきちんと見定めながらやっついていかないと、ただ、がむしゃらに一生懸命粘り強くやっているだけだと、本来目指している方向に向かっているのではないかと、それでは、主体的に学習に取り組む態度としては弱いのではないかとというのが、この図の考え方ということになる。

### 【ICTの効果的な活用について】

ICTはどうやったら効果的な活用といえるかという、一つは資質・能力の育成に向けて有効に働いているかどうか、もう一つは主体的な学びや対話的な学び、深い学びのように、授業改善の視点から見たときに有効に使えているか、ということ。例えば、資質・能力の知識の習得にヒットしていればOKとか、主体的な学びの見通しをもつというところにヒットしていればOK、のように考えていけばよいと思う。何をもちて効果的とするかがあいまいだと、結局、何のためにどう使っているのか分からなくなってしまうので気を付けたい。

### 【カリキュラム・マネジメントの視点から】

今、学校において教科等横断によるカリキュラム・マネジメントにあたり実質的な推進役を引き受けるミドルリーダーを必要としている。その有力な候補者として音楽・図工・美術を担う教師をリストにあげておきたいと天笠先生は提言されているが、各都道府県においてこのリストに上がるミドルリーダーが今どれだけおられるか、あるいはどうやって、これから育てていくか。色々なところで情報交換したり考えていけたりするといいと思っている。

## 《令和4年度 研究大会案内》

- 11月9日（水）東北音楽教育研究大会 岩手大会（矢巾町）
- 11月11日（金）関東甲信越音楽教育研究大会 茨城大会（水戸市）  
対面・オンデマンド配信
- 11月11日（金）～12月2日（金）九州音楽教育研究大会 宮崎大会  
対面・オンラインによるハイブリッド型・オンデマンド配信
- 11月18日（金）北海道音楽教育研究大会 十勝・帯広大会（帯広市）  
会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式
- 12月21日（水）～12月28日（水）近畿音楽教育研究大会滋賀大会  
オンデマンド配信



# 山口大会《総合大会》の概要



山口県PR本部長  
ちよるる

◆大会主題 「楽しむっちゃ! 音楽 ～響きあおう 感動のきずなで～」

『ちゃ』は山口の方言で、自発的に音楽を楽しむ生徒の姿をイメージしています。

◆日程 令和4年11月1日(火)・2日(水)

◆会場 山口市民会館大ホール、小ホール、展示ホール

○第1日目 中学校部会 会場：山口市民会館小ホール、展示ホール

研究主題「高めよう 音楽表現・音楽文化を ～生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる生徒の育成～」

<公開授業I> 8:50～9:40 研究協議 11:00～11:50

会場	学校名	題材・教材名等	授業者	助言者
小ホール	山口市立大殿中学校 (第2学年 器楽)	篠笛特有の表現を味わいながら演奏しよう	原田 美穂	山口県教育庁 義務教育課 指導主事 田村 恵美
展示ホール	山口市立小郡中学校 (第2学年 創作)	和音の音を使って旋律をつくろう	林 直幸	山口市立小郡中学校 教頭 野上 慎二郎

<公開授業II> 9:55～10:45 研究協議 11:00～11:50

会場	学校名	題材・教材名等	授業者	助言者
小ホール	山口市立鴻南中学校 (第2学年 歌唱)	作曲者の意図を考えて、工夫して歌おう 教材：「ぜんぶ」	實歳 純子	萩市立むつみ中学校 教頭 赤間 鈴世
展示ホール	山口市立白石中学校 (第3学年 鑑賞)	構成やテクスチャが生み出す雰囲気 を味わって聴こう 教材：組曲「展覧会の絵」から	岡本 美穂	山口市立鴻南中学校 教頭 岩崎 知恵子

<ワークショップ> 14:30～16:00 他校種のワークショップや大学のパネルディスカッションへの参加も可

「わらべうた」講師：知念直美、会場：小郡幼稚園

「歌唱指導」講師：山崎朋子、会場：山口市民会館

「指揮法」講師：田久保裕一、会場：山口市民会館

「音楽づくり」講師：高倉弘光、会場：山口市民会館

「箏の演奏と講話～いまを生きる箏～」講師：山野安珠美、会場：山口県立山口高等学校

「パネルディスカッション～コロナ禍での音楽教育活動から探る授業改善の展望～」会場：KDDI 維新ホール

○第2日目 全体会 8:50～12:45 会場：山口市民会館大ホール

開会行事・研究概要・指導講評・記念講演・記念演奏・閉会行事

## Information

全日音研中学校部会ホームページもぜひご覧ください。 <http://zennichionken-jhs.jp/>

